

仮定法

実は英語には「法」が3つもあるんです！

1. 直説法

2. 命令法

3. 仮定法

そもそも「法」って何？

「法」とは「動詞の形」のことです！

知ってた？

1. 直説法 = 現在や過去の事実を述べる場合の動詞の形
2. 命令法 = 命令や要求を述べる場合の動詞の形
3. 仮定法 = 事実とは異なる仮想のこと述べる場合の動詞の形

時制（時間）

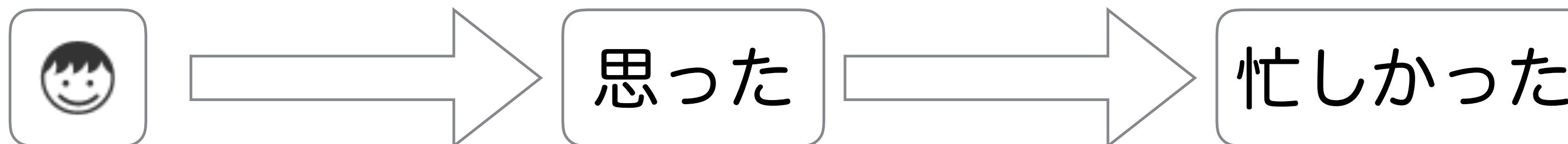
英語は時制にうるさいです！

どういうこと？

日本語の例文で説明します

私は彼が忙しかったと思った。

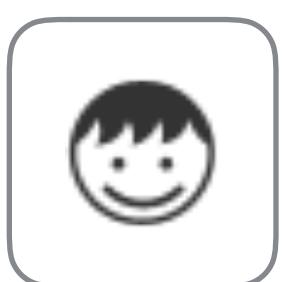
日本人はこれで時間の流れを把握できます



しかし、英語はそれぞれの時間を
正確に表さないといけません！

Holy crap!

I thought he had been busy.



thought

過去形

had been

過去完了形

前置きが長くなりましたが、

このように時間にうるさい英語だからこそ、

ありえないことを表す時に、動詞の時制をずらすのです！

Get it? Got it.

「仮定法過去」と「仮定法過去完了」を次のように表します。

仮定法過去

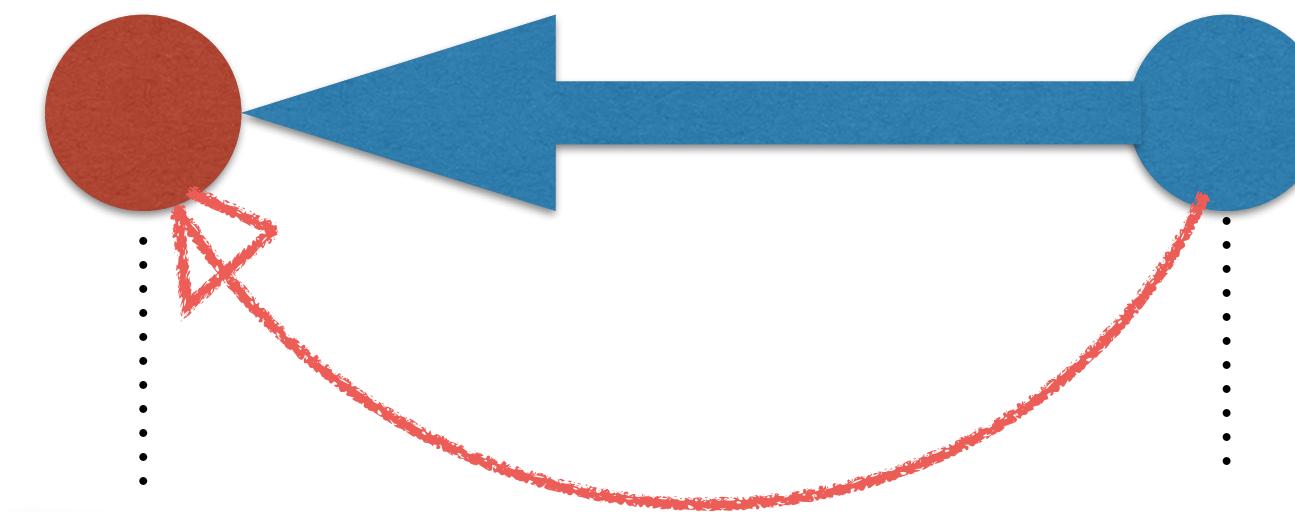
現在の仮定のことを表すので、動詞の形（法） をずらして
過去形にすること

仮定法過去完了

過去にさかのぼって仮定のことを表すので、動詞の形（法） をずらして過去完了形にすること

動詞を過去形にします。

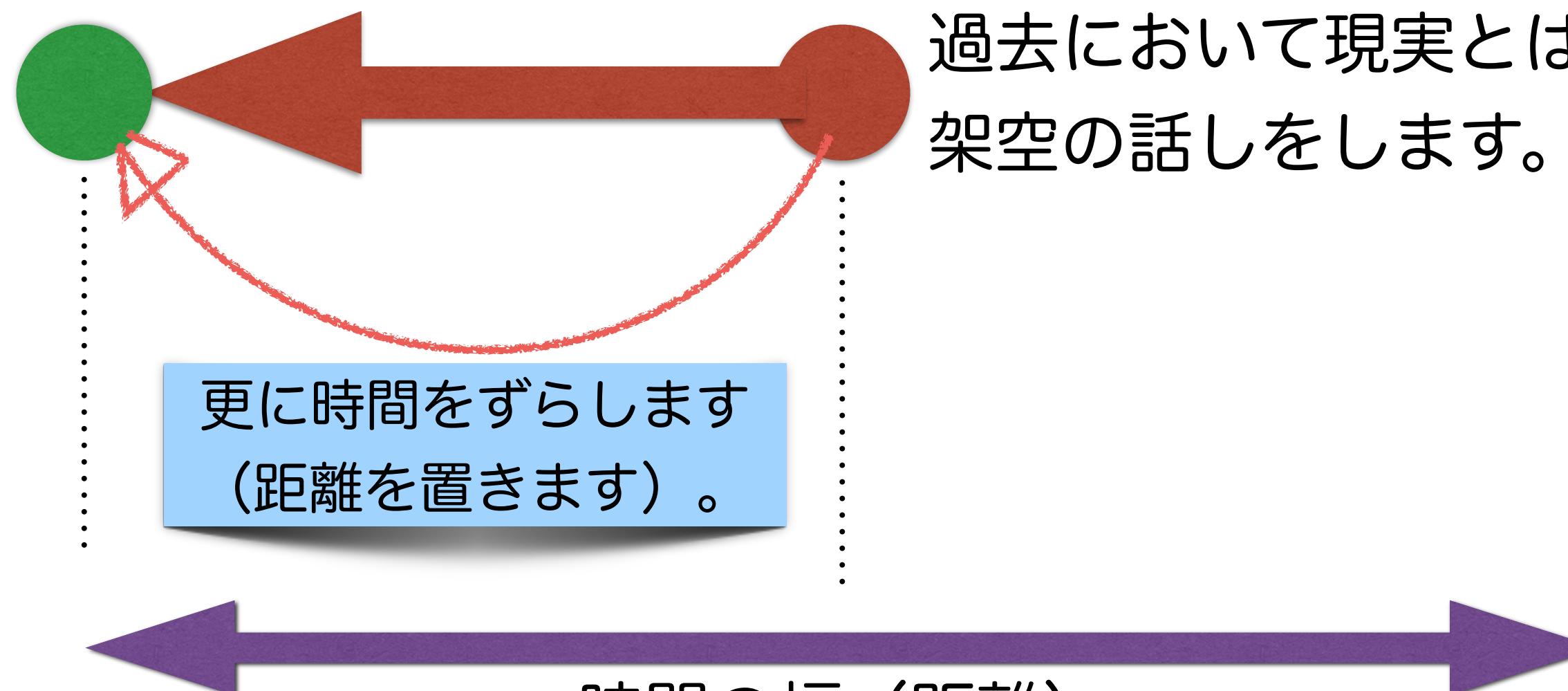
現在ここにいます。



現実とは違う架空の話しをするために
時間をずらします（距離を置きます）。

動詞を過去完了形にします。

過去において現実とは違う
架空の話しをします。



更に時間をずらします
(距離を置きます)。

時間の幅（距離）

「仮定法過去」の公式

If 主語 +	動詞の過去形 were/was	..., 主語 +	would, could should, might	+ 動詞の原形
---------	--------------------	-----------	-------------------------------	---------

「仮定法過去完了」の公式

If 主語 + had + 過去分詞	..., 主語 +	would, could should, might	+ have + 過去分詞
--------------------	-----------	-------------------------------	---------------

For you reference

助動詞の後ろは動詞の原形を置くって習いましたよね？

実はそれ間違っています。

助動詞の後ろは原形不定詞を置くが正解です。

will = be going to不定詞 must = have to不定詞

can = be able to不定詞 ought to不定詞

公式をそのまま覚えられなければ、
自分のことや身の回りのことで考えてみましょう。

仮定法過去

もし私がお金持ちはなら、新しい車を買うのに。

If I were rich, I would buy a new car.

If I had much money, I would buy a new car.

仮定法過去完了

もし一生懸命勉強していたら、東大に入れたのに。

If I had studied harder, I could have entered the University of Tokyo.

if節と主節で表す時が異なる場合

if節が過去で、主節が現在のこと

if節には過去の事実に反するから「仮定法過去完了」を、
主節には現在の事実に反するから「仮定法過去」を用います。

If I had caught the train then, I would be at home now.

もしあの時その電車に間に合っていたら、今頃家にいるのに。

if節と主節で表す時が異なる場合

if節が現在で、主節が過去のこと

if節には現在の事実に反するから「仮定法過去」を、
主節には過去の事実に反するから「仮定法過去完了」を用います。

If I knew any French, I would have known that the museum closed at three.

もし少しでもフランス語ができれば、博物館が3時に閉まるということが分かったただろうに

wish 「～なら（だったら）なあ」

wish以降が現在の事実に反するなら「仮定法過去」を、
過去の事実に反するから「仮定法過去完了」を用います。

I wish I knew her LINE ID. 彼女のLINE IDを知っていたらなあ。

I wish I had finished my homework. 宿題を済ませておけばよかったなあ。

as if 「まるで～である（あった）かのように」

as if 以降が現在の事実に反するなら「仮定法過去」を、
過去の事実に反するから「仮定法過去完了」を用います。

He talks as if he knew everything.
彼は何でも知っているかのように話す。

He looks as if he had won the match.
彼はまるでその試合に勝ったかのように見える。

Conclusion

仮定法は、実際の時制とは時間をずらすことで仮定のことを表すので、分かりづらいのは確かです。

しかし、落ち着いて動詞の時制を確認しましょう。
例えば次のようにしてみるのはどうでしょうか。

過去形には○を、過去完了形には□をつけてみる。

If I **had** much money, I **would** buy a new car.

If I **had studied** harder, I **could have entered** the University of Tokyo.

問題用紙のどこかに

実際の時制は → ○ = 現在、□ = 過去

をもつても^。

過去形には○を、過去完了形には□をつけてみる。

If I knew any French, I would have known that the museum closed at three.

I wish I knew her LINE ID.

He looks as if he had won the match.

問題用紙のどこかに

実際の時制は → ○ = 現在、□ = 過去

をもつてお^。



A rectangular note with a thin black border and a small pushpin at the top center. The note contains the text "Thank you for your attention." in a large, elegant, black cursive font.

Thank you for your attention.